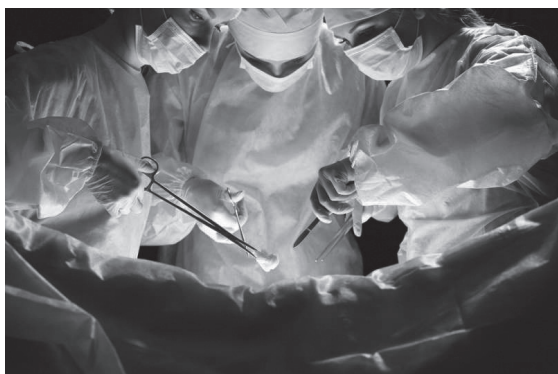


『手術はなるべく 70 歳代のうちに』



唐突に手術の話で恐縮なのですが、日常診療で気付いたことの一つなのでご容赦ください。天塩の皆さんは我慢強いといふべきなのか、手術を受けて残りの人生を快適に過ごしましょうと提案する医師に巡り合わなかったのか、実情は分かりませんが、相当具合が悪い方をちよくちよくお見受けします。とりわけ私の専門領域である整形外科疾患で言いますと、関節が加齢に伴って変形し軟骨が擦り減ってしまっている方、腰骨の變形が強く腰痛や下肢の神経痛がひどくなっている方が多い印象があります。

手術というと、左の写真のように誰しも何となく怖いイメージがあるかと思えます。ですが、今日では歯を食いしばって手術の痛みに耐えるというようなことは全くあり得ず、点滴一本は必要なものの全身麻酔であれば麻酔科医が「これから眠くなりますよ」と、麻酔のお薬を流し始めると、ものの20〜30秒で眠りに落ちてしまい、気が付いた時には手術は終了しています。家族に「頑張つて」と手を握り合つて見送られる光景は今も見受けられますが、手術室に入れば患者様は麻酔がかかって眠るだけなのが実際です。

もちろん手術に否定的な見解を持つ人の話も聞かえてくるでしょう。受けたくない気持ちに傾いていると、そうした声が耳に優しく響きます。本当に危険な手術や術後ほとんどの人に痛みが残つてしまふような手術が、医療先進国の日本で広く定着するはずはありません。大多数の人がメリットを享受でき、リスクも最小限に抑えられているからこそ、広く日本・世界中に普及しているのです。

お薬が効きにくくなつてもっと強い薬はないものかと思つていませんか。強いお薬には（すぐには生じなくとも）後々になつて身体に負担をかける副作用を持つていくことが多いものです。身体に起きている本質的な問題にきちんと向かい合ひましょう。症状を抑えることに終始していると「副作用のためこれ以上のお薬は使えませんが」という日が早晚訪れます。手術は技術的な側面のみならず、タイミングという要素がとても重要です。例えば「がん」の場合、手遅れになれば手術はもう受けられませんが宣告されることがある訳ですが、関節や腰の手術も同じです。すでに歩くのが不自由になつて時間が経過していると、しっかりといい手術をしてもら

ても、もはや元のような筋力は取り戻せなくなつてしまいます。神経の圧迫を解除するよ

うな背骨の手術であれば、芝生に置いた石を取り除く場合と同じで、圧迫を受けていた期間が長くなるほど、石を動かしてももはや芝生は息を吹き返さないかもしれせん。しびれの症状などは手術を受けても取れにくくなり、満足度が低下する要因になります。

自然を相手に仕事をされている方が多い地域なのでお分かりいただけると思いますが、人間の体も大自然の一部ですから、タイミングを失えば衰りは減つてしまいません。80歳、90歳になつても全く内臓も元氣という方ももちろんおられますが、手術に耐えるのに必要な臓器機能は年齢とともに低下してくるのが一般的です。手術ができる状態の方には、遅くとも70歳代のうちに受けておくことをお勧めしています。

何事も後手に回れば追い詰められ、選択肢は限られてしまいます。将来を見据えて先手で過ごすことこそ、天塩の土地で生きていくのに必要な知恵なのではないでしょうか。

（文責 院長橋本伸之）

